

爽秋会だより

平成18年10月
創刊号

医療法人社団爽秋会岡部医院 院長 岡部 健

爽秋会は、在宅の患者さんのQOL（生活の質）を、看取りの段階まで維持することに努めています。QOLとは、WHOが定めているように、身体面に限った話ではありません。心理や社会性の面、さらにはスピリチュアルな面もそろってはじめて「生活の質」の維持、向上をいうことができるのです。そのため、これらの多面的な課題に対処し、患者さんとご家族の在宅療養の生活を全体的に支えることが、当院のケアの目標となります。そこで当院では、さまざまなスタッフの力を結集した**チームケア**を行い、そのケアの向上を図っています。

いまチームケアが必要とされるのは、狭義の医療だけではQOLを支えることができないからです。医療ができることは限られています。すなわち、健康状態が損なわれているとき、これを正常な状態に近づけることです。これは医療の得意とするところですが、しかし、これからの在宅医療に求められているのは、身体健康の回復だけではありません。

今日、病気との付き合い方や看取りのあり方が大きく変わりつつあります。生老病死の多くの問題を、病院でカバーしようとするやり方の限界や、問題点が浮上しつつあります。その大きなひとつは看取りの問題です。人が亡くなっていく過程は、決して病気として捉えるべきことではありません。人が老いて衰え、亡くなることは正常な、自然の営みの一部です。しかし、いつしか人が老い、衰え、亡くなる過程は病的なもののみなされるようになりました。老いや死が病的なものとしてされたとき、それは医療によって取り扱われるべきものとされてしまいました。その結果、現代の日本では病院死が82%にものぼっています。昭和51年までは、在宅で亡くなる方が半数を占めていたことを考えると、この変化のはげしさには驚きを隠せません。かつては家の中で行われた看取りの経験や、それを支えていた文化、死生観は急速にくずれつつあります。そのなかで再び社会は在宅中心の医療の仕組みをとろうとしているのです。そのため、**地域のなかにあった看取りや死生観に関する文化の崩壊**にいかに対処するかは、今後真剣にとりくまれるべき課題となってくると考えられます。

もちろん、実際に在宅医療をおこなう場合、かつての地域社会や家族のあり方と、現代のそれとが異なる、という点は忘れられてはならないでしょう。現代の小家族にとって、介護の負担の大きいことはいまでもありません。それゆえに、医療以外の社会制度、社会的資源を有効に活用した介護が必要となってきます。チームケアのかたちをとるとき、こうした介護・福祉面をサポートする専門職との共同作業も、より容易になってきます。医療、介護・福祉、さらに地域の死生観や文化に関する**専門家が連携してチームを組んだとき、患者さんとご家族のQOLを支えるケアが実現できるのではないかと、そのように考えています。**



岡部医院は、在宅療養を支える在宅療養支援診療所です。在宅療養とは、訪問診療、訪問看護を軸とした患者様のご自宅での療養です。訪問診療では、医師がご自宅に伺い、在宅療養上の指導をし、訪問看護ステーションに指示をだすなどします。訪問看護は、ご自宅への看護師の訪問、在宅療養のお手伝いをします。

さらに、訪問リハビリ・居宅介護支援・ヘルパー派遣・鍼灸・ケア相談・訪問薬剤管理指導（外部調剤薬局）も行っています。さまざまな職種のスタッフがチームを組んで、患者様とご家族のニーズに対応をしています。また、患者様からの緊急の連絡にも対応できる体制も整えています。具体的には、24時間対応の電話による指示、緊急往診および訪問看護ができるようになっています。

以上のようなかたちで、日々工夫も加えながら、患者様がご自宅でも安心してご家族と生活を送れるようサポートしていきます。

心の相談

心のケア専門員・チャプレン 大村 哲夫

「心のケア」というのはよく聞くけど、「チャプレン」って何？チャップリンみたいなもの？何か面白いことをしてくれるの？などと疑問に思われるのではないのでしょうか。

当医院では、患者様やご家族の不安に応えるため主として臨床心理学的な対応をするカウンセラー（心理療法家）と、より宗教的な相談にのる病院付きの聖職者であるチャプレンの2つが一体となったスタッフとして「心のケア専門員・チャプレン」を置いています。

カウンセラーとしてはじっくりお話を聞かせていただきながら、お気持ちを整理していくお手伝いをし、チャプレンとしては仏教をベースにキリスト教にも触れながら、生き方や死について疑問に思うことなどを話し合っていきたいと考えています。

特定の宗派や教団に勧誘するということはありません。患者様の宗教性を尊重しながら、それを支えていくこととなります。医師や看護師、鍼灸などのように具体的に何か手当てを行うことはありませんが、一緒に考え祈っていくことで患者様の「生」を大切にしていきたいと思えます。ご希望によっては、一緒にお経を誦むこともできます。

どうぞお気軽にお声をかけてください。



レクリエーション

出掛けたいけど、自分たちだけでは不安はつきものです。
そこで、当院では患者様と共に季節を感じようと様々なイベントを企画しています。

- 4 月：お花見会
- 7 月：バーベキュー
- 10 月：芋煮会
- 12 月：クリスマス会

* この他にも、ちょっとしたお出掛けのお手伝いもさせていただきますのでお声掛けてください。 *



一昨年秋に行われた芋煮会の様子です。患者様、ご家族様、スタッフ、ボランティアの大勢で楽しい時間を過ごしました。
今後のイベント開催については近くなりましたらご案内いたしますので、その際はお気軽に職員にお尋ね下さい。

学生さんから実習の感想

岡部医院での実習を通じて 自治医科大学医学部 4 年 小野公平

私は平成 18 年の 8 月 28 日から 31 日まで岡部医院で実習をさせていただきました。私は在宅医療や緩和ケアに興味があり、夏休みの期間を利用して、在宅医療に熱心に取り組んでいる医療機関に見学に行きたいと思い、岡部医院に実習を申し込みました。岡部医院に来て最も印象的だったのは、岡部先生の医療に対する考え方と、それを支える職員の皆様のアットホームな雰囲気でした。岡部先生の根底には、より多くの患者さんに真に必要なとされる医療を提供したいという、医者としてのぶれない軸が存在しているのであろうと思いました。職員の方もそんな岡部先生の考え方に賛同し、職種は違えども同じ未来をみつめて活動していっているように思いました。私は医師や看護師、鍼灸師やヘルパーの方の仕事を見学させていただくことができました。また院内でゲストを招いての勉強会（私がお邪魔したときは米国でソーシャルワーカーとして活動されていた方の講演がありました）も行っており、積極的に新しい知識を取り入れていこうとする姿勢に驚きました。他にも普段はあまり接する機会の少ない他職種の方（社会学者やチャプレンの方）とも提携し、よりよい緩和ケアの実現のために多面的な活動をされており、4 日間の実習でしたが非常に内容の濃い実習を行うことができました。電子カルテを使って情報の共有化をはかっている点など、細かい点を挙げれば他にもたくさん驚いた事はありませんでしたが、全体を通しての感想としましては、職員の方一人一人がそれぞれの立場やアプローチで、より良い在宅医療の実現に向けて活動されている姿や、そういった職員の方一人一人が集まって、岡部医院として在宅の患者さんに対して質の高い医療を行っている点が非常に印象的で、また羨ましく思いました。

岡部医院緩和ケア相談室では、

もっと詳しく病気の情報を知りたい、これからどのように治療を受けていけばよいのかわからないなどのがん医療についてのご相談、制度や福祉についてのご相談、日常生活や心のケアについてのご相談など、がん患者さんとご家族のサポートのための緩和ケア相談を行っております。

診療情報提供をいただいたの診察やセカンドオピニオン、当院の在宅ホスピスケアについてのご相談は、医療保険の適応（診療）となりますので、別途相談料はいただいておりません。

相談日：毎週木曜日 9 時～17 時
場 所：仙台市青葉区二日町 1 3 の 2 6
 ネオハイツ勾当台 901 号室
予約制：予約電話 022 - 381 - 1236
 （月～金 9：00～17：00）
相談料金：30 分 3000 円～5000 円の有料と
 なっております